

松岡牧場バイオガスプラント導入の経緯

下川町の後押しが大きい。この時、プラント設置が出来る経営規模（最低250頭）は松岡牧場だけだった。

R25年5月 町職員とともに北海道内の先進地視察（鹿追町、士幌町）を実施。

R25年6月 下川町がバイオマス産業都市に選定される。下川町バイオマス産業都市構想にメタン発酵発電と熱利用計画が盛り込まれる。

農業収益の向上と環境に配慮した農業経営。耕畜連携による土づくりの奨励。下川町のエネルギー自給率100%を目指す。

売電による収益の向上が魅力

バイオガス発電施設整備事業（有松岡牧場：H26～H27） （H26 地域バイオマス産業化整備事業（農林水産省））

■目的

家畜糞尿によるバイオガス発電施設を設置し、電力の供給や熱の有効利用を行うとともに、有用な消化液（液肥）を飼料作物への施肥等に利用し、耕畜連携による環境にやさしい農業（土づくり等）の推進を図る。

■酪農家規模

- ・生乳生産・加工販売及び乳牛・肉牛の飼育販売 従業員5名
- ・乳用成牛250頭、育成牛150頭 計400頭

■施設概要

- ・貯留槽 1基(3,000㎡、φ31m×4m)
- ・発酵槽 1基(1,107㎡、φ19m×6m)
- ・ガスホルダー 1基(200㎡)
- ・発電設備 1基(定格出力100kW) ⇒ 稼働率9割以上(安定稼働)
- ・機械室、機械設備、給湯設備 一式

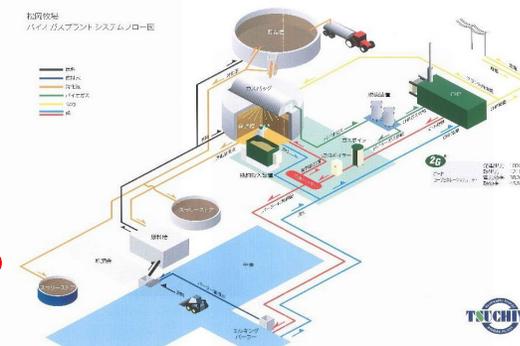
■生産計画

- ・原料調達量 7,811t/年(糞尿:19.7t/日、残飼:1.7t/日) ※自家牧場の糞尿及び残飼利用
- ・バイオガス生産量 432,160Nm³/年
- ・発電量 788,400kWh(うち売電量 759,930kWh/年) ※売電額 約32,000千円/年
- ・熱利用量 2,877GJ/年
- ・液肥 7,811t/年

■事業費(補助金額:交付決定金額)

- ・総事業費 248,400千円
- ・補助金額 57,934千円(FIT対象設備を除く事業費の1/2以内)

■施工業者 株式会社土谷特殊農機具製作所(本社:帯広市)



有限会社下川フィードサービス（TMRセンター）

2004年 下川町内の酪農家17戸と所属するJA北はるか共同出資により設立。
圃場面積 1,250haを一元管理。飼料の共同購入、TMR調整等。
(草地950ha、デントコーン300ha)



2016年 生乳生産部門を新設 牧場名 しぼりん

目的 将来、離農予定の酪農家がいる中、下川の農業基盤を守るには、
畜産クラスター事業を利用し下川フィードサービスが 直接 生乳生産
をする必要があると判断。



500頭規模 搾乳ロボット6台 フリーストール牛舎 糞尿貯留槽
畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業の採択を受け整備

バイオガスプラントの設置の経緯

売電による収入よりも、この施設周辺は重粘土地帯であり、晩秋のコーン畑への還元が
難しい事から、糞尿を完全に発酵させ草地で利用しやすくすること、また、耕種農家に
利用して頂けないと適正に処理するのが難しいと考えた。

従って、計画時から耕種農家の方々に話を持ち掛けており、先進地、鹿追町、土幌町
を農協、耕種農家の方々と共に訪問し、少しずつ理解を得た。



事業費 370,00万円 補助事業なし、全額融資を受ける。